ISE 3.3モニタリングデータベースファイルの破損が原因でログの可視化が失敗する問題のトラブルシューティング

内容

問題

Cisco Identity Services Engine(ISE)3.3でシステムを再起動した後、プライマリ管理ノード(PAN)からログの可視化機能を使用できなくなりました。 この問題は、ISE Webインターフェイスを介してログとRADIUSライブログを表示できないために発生しました。この問題は、ISE 3.3パッチ8からパッチ10にアップグレードした後も、不具合の可能性があるために解決しませんでした。データベースロックエラーが原因で、application configure iseコマンドオプション4を使用したモニタリングデータベースのリセットが失敗し、ログ可視化機能の復元ができなくなります。

環境

- Cisco Identity Services Engine(ISE)バージョン3.3
- 最初はISE 3.3パッチ8を実行、後でパッチ10にアップグレード
- プライマリ管理ノード(PAN)とセカンダリ管理ノード(SAN)を使用したマルチノードISE導入
- システムの再起動後に問題が発生。
- モニタリングとトラブルシューティング(MnT)データベースの機能に影響があります。

解決方法

この問題を解決するには、正常に機能しているSANノードから破損したPANノードに監視構成ファイルをコピーした後、制御された再起動を行ってログの可視化機能を復元する必要がありまし

た。

ステップ1：ファイルの分析と比較

診断分析により、/opt/CSCOcpm/mnt/config/mnt.propertiesにあるmnt.propertiesファイルに、PANノードとSANノード間で一貫性のない情報が含まれていることが判明しました。PANノードのファイルが不完全または破損していると判断されたため、適切な監視サービス機能を実行できません。

ステップ2：ファイル同期手順

スケジュールされたメンテナンスの時間帯に、次の手順が実行されました。

1. 機能しているSANノードにアクセスし、正しいmnt.propertiesファイルを見つけます。

2. SANノードからPANノードにmnt.properties ファイルをコピーし、両方のノードのモニタリング設定が同じであることを確認します。

3. ファイルが正常にコピーされ、正しい構成データが含まれていることを確認します。

ステップ3：システムの再起動と検証

1. PANノードを再起動して設定変更を適用します。

2. ログ可視化機能がISE Webインターフェイスで復元されていることを検証します。

3. ノード（プライマリ管理ノードとセカンダリ管理ノード）間でサービスを複数回切り替えて包括的なテストを実施し、安定動作を確認する。

4. 両方のノードで接続の詳細とRADIUSライブログが正しく表示されることを確認します。

再起動後、ログの可視化が正常に復元され、機能テストにより、認証ログと接続の詳細を完全に可視化して、両方のノードで正常に動作することが確認されました。

原因

根本原因は、プライマリ管理ノードのmnt.propertiesファイルで破損または不完全なデータとして特定されました。このファイル(/opt/CSCOcpm/mnt/config/mnt.properties)には、モニタリングサービスおよびトラブルシューティングサービスに必要な重要な設定情報が含まれています。このファイルが破損したり、展開内の他のノードと比較して矛盾したデータが含まれていたりすると、PANはRADIUSライブログやその他の監視情報を正しく処理して表示することができません。ファイル破損の正確なトリガーを正確に判断することはできませんが、分析から、証明書のインストールまたは変更アクティビティの後にファイル破損が発生した可能性があることが示唆されました。ただし、これはISEの導入で一般的に見られる動作ではありません。

関連コンテンツ

- シスコのテクニカルサポートとダウンロード

翻訳について
シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。